

第4期 事業報告

事業記録

日付	内容	事業主体等	担当等
平成15年 4月1～2日	京都大学瀬戸臨海実験所標本整理	自主研究	岩瀬
4月16日	第1回大手の浜サンゴ群落埋没調査及び 環境の回復に関する検討会	高知県	岩瀬
4月18日	平成15年度第1回臨時理事会 平成15年度第1回臨時評議員会		
4月19日	「遊亀会」第1回会合		田中
4月25日	CURRENT12号発行	自主事業	
5月 2日	檜西小学校 依頼教室(於 研究所)		中地
5月10日	愛南マリンボランティア研修会 講師派遣	西海町	岩瀬・田中
5月16日	すくも湾漁業協同組合 准組合員加入		
5月17日	竜串自然再生調査:潮間帯坪刈り調査開始	環境省	
5月23日	平成15年度第1回通常理事会		
5月29日	下の加江中学校 講師派遣		田中
5月31日	黒潮実感センター理事会・総会	黒潮実感センター	岩瀬
6月 6日	第1回竹ヶ島海中公園自然再生専門部会 及び協議会	徳島県	岩瀬
6月19日	平成15年度第1回通常評議員会		
6月16日	檜西小学校 講師派遣		中地
6月20日	財団寄附行為一部改正		
6月21日	檜西海岸にイルカ死体漂着・調査	自主調査	
6月21日	足摺海洋館 イベント 講師派遣		田中
6月26日～8月15日	大月町西泊サンゴ産卵状況調査	自主調査	林
7月 2日	竜串自然再生調査:移植サンゴ成長量 調査開始	環境省	
7月 9日	竜串自然再生調査:幼生加入量調査開始	環境省	
7月10日	土佐清水土木事務所 勉強会 講師派遣		岩瀬・田中
7月11日	黒潮生物研究所建物登記完了		
7月15日	竜串自然再生調査第1回技術支援委員会	環境省・自然研	岩瀬
7月17日	高知県西部地域新エネルギービジョン 第1回住民参加小委員会	高知県西部 新エネ策定委	岩瀬
7月19日	サンゴ礁データブック編集会議	環境省・自然研	岩瀬
7月23日	エムピージェー・マリンアクアリスト 編集部取材		岩瀬
7月25日	CURRENT13号発行	自主事業	
7月29～31日	黒潮実感センター・黒潮生物研究所共催 サマースクール2003	黒潮実感センター との共催	
7月31日	高知放送取材		

日付	内容	事業主体等	担当等
7月31日～8月2日	第2回黒潮生物研究所サマースクール	自主事業	
8月6日	竜串自然再生調査：潮流予備調査	環境省	
8月7～8日	台風10号襲来 竜串自然再生調査：波浪観測	環境省	
8月21日	高知県政策総合研究所取材		岩瀬
8月26日	第2回大手の浜サンゴ群落埋没調査及び 環境の回復に関する検討会	高知県	岩瀬
8月28日	竜串自然再生調査：第1回調整会議	環境省	岩瀬
8月30日～9月30日	竜串自然再生調査：流速及び波高調査	環境省	
8月31日～9月1日	竜串自然再生調査：海底地形調査	環境省	
9月4日	竜串自然再生調査：マンタ調査	環境省	
9月9日	柏島マンタ調査(台風被害調査)	大月地区タ化 ソグ業者部会	岩瀬
9月10日	ウミガメ等の保護に関する条例の勉強会	高知県議会 自民党政調会	岩瀬・田中
9月12日	中地・田中：「研究員」に昇格		
9月15日	高知放送取材		
9月30日	高知県政策総合研究所取材		
10月10日	竜串自然再生調査：伊方原発廃貝処理視察	環境省	岩瀬
10月13日	竜串自然再生調査：多項目水質調査開始	環境省	
10月21日	講師派遣及び実地指導 柏島サンゴ移植「後浜サンゴ修復」	大月地区タ化 ソグ業者部会	岩瀬
10月22日	高知県高等学校研究会理科部会幡多支部 秋季研修会	高知県高等学 校研究会	中地
10月25日	CURRENT14号発行	自主事業	
10月27日～11月5日	平成15年度西海町サンゴ移植	宇和海海中 資源保対協	田中
10月27日～12月26日	竜串自然再生調査：魚類相調査	環境省	
11月2日	竜串自然再生調査：堆積物分析調査開始	環境省	
11月7日	高知県西部地域新エネルギービジョン 第2回住民参加小委員会	高知県西部 新エネ策定委	岩瀬
11月12日	高知県循環型社会を目指す県民懇談会	高知県	岩瀬
11月14～16日	日本サンゴ礁学会第6回大会 参加		中地
11月15～16日	第2回竹ヶ島海中公園自然再生専門部会 及び協議会	徳島県	岩瀬
11月21日	第1回環境創造・生物共生型港湾整備 方策検討委員会	沿岸開発技術 研究センター	岩瀬
11月21日	「遊亀会」第2回会合		田中
11月27日	第14回日本ウミガメ会議出前授業 講師派遣	日本ウミガメ 協議会	田中
11月28～30日	第14回日本ウミガメ会議 参加		岩瀬・田中
12月4日	高知県循環型社会を目指す県民懇談会	高知県	岩瀬

日付	内 容	事業主体等	担当等
12月15～18日	昭和記念館標本整理	自主研究	岩瀬
12月17日	姫ノ井小学校 依頼教室(於 研究所)		中地
12月19日	モニタリングサイト1000 ワーキング・グループ委員会	自然環境研究 センター	
12月28日	餅つき大会		
平成16年1月13日	由良小学校 講師派遣		田中
1月20日	高知県循環型社会を目指す県民懇談会	高知県	岩瀬
1月28日	竜串自然再生調査：第2回技術支援委員会 及び調整会議	環境省・自然研	岩瀬
1月29日	黒潮実感センター理事会	黒潮実感センター	岩瀬
2月 4日	第3回大手の浜サンゴ群落埋没調査及び 環境の回復に関する検討会	高知県	岩瀬
2月9日	咸陽小学校 講師派遣		田中
2月13日～3月 9日	モニタリングサイト1000 スポットチェック調査	自然環境研究 センター	
2月16日	竜串自然再生事業：地元説明会	環境省	岩瀬
2月17日	第2回環境創造・生物共生型港湾整備 方策検討委員会	沿岸開発技術 研究センター	岩瀬
2月18日	平成15年度第2回通常理事会		
2月25日	高知県循環型社会を目指す県民懇談会	高知県	岩瀬
2月27～28日	第3回竹ヶ島海中公園自然再生専門部会 及び協議会	徳島県	岩瀬
2月28日	竜串自然再生調査：海藻相調査	環境省	
3月 7日	クラブノアむぎ サンゴ移植事業 協力	クラブノアむぎ	岩瀬
3月11日	モニタリングサイト1000 ワーキング・グループ委員会	自然環境研究 センター	岩瀬
3月13日	平成15年度第2回通常評議員会		
3月18日	竜串自然再生調査：第3回技術支援委員会 及び調整会議	環境省・自然研	岩瀬
3月22日	高知県循環型社会を目指す県民懇談会	高知県	岩瀬
3月27日	愛南マリンボランティア研修会 講師派遣	西海町	岩瀬・田中

事業の内容

1 研究所管理運営

漁業協同組合への加入

5月16日にすくも湾漁業協同組合に准組合員として加入が承認された。これに付随して、研究船「つきなだ」を、7月22日付で漁船登録した。

寄附行為の変更

税務署の指示により、6月20日付で寄附行為第6条第2項、第8条、第13条第2項、第16条第4項、第5項、第6項、第7項、第8項、第28条、第30条第3項、第4項、第34条、第36条第2項、附則第5項、第6項を変更した。変更の内容は財団の財産管理に関する事項と役員の資格に関する事項で、法令に照らして齟齬が生じないよう、規定の正確を期したものである。

研究所建物の登記

諸般の事情により遅れていた研究所建物の登記が、7月11日付で完了した。

2 研究関係

(1) 造礁サンゴ類の増殖に関する研究

クシハダミドリイシの受精卵から成熟群体までの飼育

稚サンゴの飼育光環境を変更することにより、藻類と競合する時期の生残率を上げることが出来た。立体的な群体を形成するに至る時期の光環境について、継続研究中。

クシハダミドリイシ幼体の成長

昨年度の受精卵から得られたサンゴ幼体4体のうち、2群体を海に放流して水槽飼育中の2群体と成長を比較中。

クシハダミドリイシプラヌラの着生基盤の材質再検討

御影石、サンドブロック、テラコッタ、赤レンガ、ベルギーレンガ、耐熱レンガ、セメント板、板状に固めた漆喰、板状に加工したサンゴ礫、石綿セメント板などの素材を同じ水槽に設置し、プラヌラの着生数を比較した。その結果、素材の違いよりも海水中に沈めている期間に素材表面を覆うバイオフィルムの状態が関係している可能性が示唆された。継続研究中。

クシハダミドリイシの配偶子形成ならびに生殖周期に関する研究

昨年度に引き続き周期的なサンプリングと産卵期間における夜間の産卵観察を行った。これまで得られた標本の処理を進め、クシハダミドリイシの生殖腺の構造やポリプ内の生殖細胞の配置、また、産卵日における生殖腺の経時的変化、バンドル形成過程などが明らかになった。また、昨年度と今年度の産卵観察では群体間や群体内における分割産卵が頻繁にみられた。組織学的観察の結果、群体間の分割産卵は生殖腺の成熟度は群体ごとの生殖腺の成熟度の違いによって引き起こされていることが分かった。今後も継続して観察を進め、配偶子形成過程や生殖腺の発達と水温等の環境要因との関係について検討する。

受精卵の冷凍保存技術の研究

昨年度に引き続きサンゴの受精卵の冷凍保存試験を行った。緩徐凍結法と急速凍結法で凍結して液体窒素内で保存した後、1ヶ月後に急速解凍法により解凍したところ、発生の進行は観察されなかったが、解凍した受精卵の状況には昨年度に比べて若干の改善が見られた。引き続き平成16年度も冷凍法を改良して試験を続ける。

西泊におけるサンゴの産卵状況調査

研究所前の海域で、6月26日から8月15日までの期間、ミドリイシ属の産卵調査を行った。

(2) ウミガメ関係

人工衛星によるウミガメの行動追跡

日本ウミガメ協議会と協力して、アルゴスシステムを用いたアカウミガメの行動追跡を行った。その結果、世界で初めての例となる、産卵前のアカウミガメの行動の一端が明らかになった。

アカウミガメの産卵状況に関する調査

土佐清水市大岐の浜において、夜間および早朝、アカウミガメの産卵調査を行い、産卵頭数、産卵個体のサイズ、標識の装着を行った。その結果、平成15年に大岐の浜では産卵回数が38回である事が明らかになった。また、3頭の産卵個体に標識を装着した。

ウミガメの回遊経路、成長、および死亡に関する調査

日本近海のウミガメ類の海遊経路を明らかにする目的で、定置網で混獲されるウミガメ類に標識を装着して放流した。放流にあたっては、再捕獲時までの成長を知る資料として甲長と甲幅を計測した。調査は貝の川漁港、以布利漁港、榎の浦漁港の3ヶ所の定置網で行い、10個体のウミガメを標識放流することができた。本研究は現在全国的に行われている標識放流の調査の一環として行われたため、標識は日本ウミガメ協議会の標準標識を用い、放流の情報を日本ウミガメ協議会に報告した。採捕の連絡は日本ウミガメ協議会を通じて送られてくる。

また、ウミガメの死体漂着が2件あり、計測、解剖などを行って日本ウミガメ協議会に資料を送った。本研究も、日本ウミガメ協議会により全国的に行われている死亡個体調査の一環として行っている。

四国の海岸環境とウミガメの産卵との関係に関する研究

平成13,14年度に引き続き、四国南岸の海岸環境とウミガメの産卵状況について調べた。平成14年度までに愛媛県城辺町岩永～高知県芸西村琴が浜までの276kmの範囲を調査したため、今年度は高知県芸西村琴が浜～高知県東洋町白浜までの94kmの海岸線を調査し15カ所の浜の情報を新たに得た。

オーストラリア、モンレポスビーチの視察および地形調査

南半球最大のアカウミガメの産卵地であるオーストラリアのモンレポスビーチを視察し、日本各地の産卵地との比較を行うために浜の測量等を行った。

(3) 動植物相関係

研究所周辺の生物を採集し、標本を作製し、リストを作成している。平成15年度は環境省山陽四国地区自然保護事務所より発注された調査の一環として土佐清水市竜串海域で潮間帯坪刈り調査を実施し、資料の整理は平成16年度に継続している。

(4) その他

榎西海岸におけるヒメアサリの配偶子形成過程と生殖周期

これまで得られた標本の処理を進め、約200個体分の包埋作業と50個体分の切片標本を作成して、資料を整理している。継続研究中。

相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究

国立科学博物館相模灘調査実行委員会が主催して行っている標記研究に、館外研究者として参加した。昨年度相模灘で採集され、送付されたヤギ類29標本に今年度追加送付された30標本を加えた59標本について分類学的・文献学的検討を行い、中間報告を行った。本研究は平成17年度まで継続される予定。

ウニを除去することにより藻場を復元する実験

大月町周防形と古満目の2ヶ所の調査地において、平成14年度より継続してウニを除去と海藻の生育状況調査を実施した。実験開始から1年半が経過したが、有節石灰紅藻類が増加したものの、藻場を形成する大型褐藻類の増加は見られない。実験は継続中。

陰日性サンゴ類の飼育技術検討

4月から円筒水槽と造流機を用いた陰日性サンゴ類（共生藻を持たない刺胞動物・花虫綱の動物群）の飼育を開始し、流向・流速の周期、餌料等を変化させながら飼育実験を行っている。成果の一部を商業誌マリンアクアリストに紹介した。

日本産ヤギ類の整理・再検討

昨年まで東京大学総合博物館、京都大学瀬戸臨海実験所の標本を整理していたが、発展して今年から日本産のヤギ類の標本を再整理、再検討することとした。

日本に保存されているヤギ類の標本は、東京大学総合博物館、京都大学瀬戸臨海実験所の他、昭和天皇の標本（昭和記念館）などがあり、すでに整理の終わった東京大学総合博物館の標本に加えて、今年度は東京大学総合博物館、京都大学瀬戸臨海実験所と昭和記念館の標本整理を行っている。

3 受託調査・事業等

(1) 平成15年度竜串地区自然再生推進計画調査

発注者：環境省自然環境局 山陽四国地区自然保護事務所

内容：竜串湾のサンゴ群集を中心とする生態系再生方策を策定するための調査。陸域は財団法人自然環境研究センターが、海域は当財団が受注した。

期間：平成15年5月～平成16年3月

(2) 平成15年度サンゴ移植事業

発注者：宇和海海中資源保護対策協議会

内容：愛媛県西海町の海中公園地区内へのサンゴ移植技術指導及び事後調査

期間：平成15年10月～平成16年2月

(3) 平成15年度モニタリングサイト1000事業におけるサンゴ礁分野モデルモニタリング業務

発注者：財団法人自然環境研究センター

内容：日本のサンゴ群集の標準モニタリング手法確立のための実地試験調査

期間：平成16年2月～3月

4 啓蒙・広報活動

(1) 第二回黒潮生物研究所サマースクール - きみも小さな研究者 -

主催：財団法人黒潮生物研究財団

共催：大月町・大月町教育委員会

後援：高知県・高知県教育委員会

期日：平成15年7月31日～8月2日（2泊3日）

場所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県大方町、中村市、土佐清水市、宿毛市、大月町、愛媛県一本松町、城辺町の小学4～6年生 39名（内6名はリピーター）

主なプログラム：磯の生き物観察(逃げる・かくれるをテーマに)、飯盒炊さん(シイラのちゃんちゃん焼き、イカカレーなど)、テントで宿泊、海水浴、きもだめし、竹で遊ぼう(各班1本の竹を使って食器やおもちゃなど好きなものを作る)、キャンプファイアー、西泊クイズラリー(集落内にクイズポイントを多

数設置し、地域住民と交流しながら地域の伝統文化を学ぶ)、感想文

(2) 黒潮実感センター・黒潮生物研究所共催サマースクール 2003

主 催：財団法人黒潮生物研究財団・特定非営利活動法人黒潮実感センター

後 援：高知県教育委員会

期 日：平成 15 年 7 月 29～31 日(2泊3日)

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所・大月町柏島 黒潮実感センター

参加者：大月町立大月中学校及び三原村立三原中学校の生徒 22 名

主なプログラム：ビーチコーミング(海岸の漂着物調査)、磯の生き物大運動会、魚市場見学、飯盒炊さん(イカカレー)、キャンプファイアー、葉脈絵はがき作り、シュノーケリング、夜の生き物観察、浜掃除

(3) 機関誌「CURRENT」出版

4月、7月、10月、1月の4回、予定通り刊行した。平成16年1月現在、国内の142ヶ所に発送している。

(4) 近隣の教育機関との連携等

大月町立檜西学校 総合学習の時間

期 日：平成 15 年 5 月 2 日

内 容：教室開催(於 黒潮生物研究所)

テーマ：ウミウシ探し・顕微鏡で見てみよう

土佐清水市立下の加江中学校 総合学習の時間

期 日：平成 15 年 5 月 29 日

内 容：講師派遣

テーマ：日本産アカウミガメの生態と保護活動

大月町立檜西小学校 教職員対象学習会

期 日：平成 15 年 6 月 19 日

内 容：講師派遣

テーマ：科学的研究の進め方について

高知県立足摺海洋館 イベント

期 日：平成 15 年 6 月 21 日

内 容：講師派遣

テーマ：高知の海を泳ぐウミガメ

2003 年度高知県高等学校研究会理科部会幡多支部秋季研修会

主 催：高知県高等学校研究会理科部会幡多支部

期 日：平成 15 年 10 月 22 日

場 所：黒潮生物研究所

参加者：高知県下の高等学校理科教員

テーマ：黒潮を臨む自然環境の観察と黒潮生物研究所の活動を知る

豊橋市立向山小学校 第14回日本ウミガメ会議・出前講演

期 日：平成 15 年 11 月 27 日

内 容：講師派遣

テーマ：ウミガメの生態と砂浜の環境変化

大月町立姫ノ井小学校

期 日：平成 15 年 12 月 17 日

内 容：教室開催(於 黒潮生物研究所)

テーマ：環境を守る取り組みについて

津島町立由良小学校須下分校

期 日：平成 16 年 1 月 13 日

内 容：講師派遣・ウミガメ預かり

テーマ：小学校で飼育していたアカウミガメ「パクン」の預かり飼育とお別れ会

宿毛市立咸陽小学校 総合的な学習の時間

期 日：平成 16 年 2 月 9 日

内 容：講師派遣

テーマ：砂浜の環境を調べる

(5) 委員等就任

足摺宇和海国立公園竜串自然再生推進計画調査技術支援委員会

設 置 者：環境省山陽四国地区自然保護事務所

調査担当者：(財)自然環境研究センター・(財)黒潮生物研究財団

内 容：「3 受託調査・事業等」の項参照

委 員：岩瀬

竹ヶ島海中公園自然再生協議会 委員

設 置 者：徳島県県民環境部環境局自然共生室

調査担当者：(株)ニタ・コンサルタント

内 容：徳島県の竹ヶ島海中公園地区で行われている自然再生推進調査のアドバイザー

委 員：岩瀬

大手の浜サンゴ群落埋没調査及び環境の回復に関する検討会 委員

設 置 者：高知県港湾課

調査担当者：(株)エコー

内 容：高知県夜須町大手の浜でサンゴが砂に埋没しているのは高知県港湾課が行った事業に起因するという住民の声について、内容を検討し、対策を策定するための委員会

委 員：岩瀬

高知県西部地域新エネルギービジョン 住民参加小委員会 委員

設 置 者：高知県西部地域 14 市町村

調査担当者：UFJ 総合研究所

内 容：高知県西部地域のエネルギービジョン策定を行うにあたり、住民参加のあり方等について討議する委員会

委 員：岩瀬

循環型社会を目指す県民懇談会 メンバー

設 置 者：高知県 循環型社会推進課

内 容：高知県が作成している、循環型社会を創造にむけてのビジョンのためのアドバイザー

委 員：岩瀬

サンゴ礁データブック編集委員会 委員

設 置 者：(財)自然環境研究センター・環境省

編集担当者：(財)自然環境研究センター

内 容：平成 16 年 6～7 月に開催予定の世界サンゴ礁会議に向けて環境省が作成する日本のサンゴ礁の現状をまとめた冊子の編集委員会

委 員：岩瀬

モニタリング1000事業サンゴ礁分野ワーキンググループ メンバー

設置者：(財)自然環境研究センター・環境省

調査担当者：(財)自然環境研究センターを中心として多数(黒潮生物研究財団も)

内容：「3 受託調査・事業等」の項参照

委員：岩瀬

環境創造・生物共生型港湾整備方策 検討委員会 委員

設置者：(財)沿岸センター 自主研究

内容：那覇港拡張工事にあたって新設が予定されている防波堤を、サンゴ群集が成立可能な構造にするための手法の検討

委員：岩瀬

(6) その他

テレビ取材対応：高知放送「高知 NOW」サンゴの産卵の撮影 7月31日

テレビ取材対応：高知放送「高知 NOW：特集 海に生きる」撮影 9月1日

雑誌取材対応：季刊マリンアクアリスト編集部(株式会社エムピージェー) 7月23日

高知県政策総合研究所による取材対応 8月21日

財団及び研究所の活動について取材をうけ、高知県政策総研のHPに紹介された。その後も海域の自然に関する相談を受け、対応している。

高知県議会自由民主政策調査会によるウミガメ等の保護に関する条例の勉強会

9月10日

高知県議会自民党議員が準備を進めていた「ウミガメ等の保護に関する条例」のための勉強会が開催され、高知県議会議員及び高知県議会自由民主政策調査会の要請をうけ、岩瀬と田中が対応した。同条例は平成15年度末の県議会に議員立法条例案として上程され、可決された。

愛南マリンボランティア研修会 5月10日, 3月27日

愛媛県西海町の海中公園地区でスノーケリング指導等の活動を行う「愛南マリンボランティアの会」の会員を対象にした研修会。西海町役場で開催され、財団に講師派遣の要請があり、岩瀬と田中が対応した。

高知県土佐清水土木事務所勉強会 7月10日

土佐清水土木事務所から職員を対象とする勉強会に講師派遣の要請があり、岩瀬と田中が対応した。

柏島サンゴ移植「後浜サンゴ修復」事業 10月21日

8月の台風10号で被害を受けた大月町柏島のサンゴ群集の修復を目的として、大月地区ダイビング業者部会が企画したサンゴ移植事業に対してアドバイスを求められた。岩瀬が9月9日にマンタ法による現状調査を行い、10月21日に海底に散乱しているサンゴの破片を移植する事業「後浜サンゴ修復」事業の指導を行った。

クラブノアむぎのサンゴ移植事業 3月7日

8月の台風10号で被害を受けた徳島県牟岐大島のサンゴ群集の修復と、ダイビング客への自然保護啓蒙を目的として、3月7日にクラブノアむぎが主催した「サンゴ大作戦」に対する講師派遣の要請を受け、岩瀬が出席して移植の理念や手法、牟岐大島のサンゴ群集の特徴等について講演した。

ウミガメ情報ネットワーク「遊亀会」立ち上げ 4月19日, 11月21日

高知県でのウミガメ情報交換会を立ち上げ、平成15年4月19日と11月21日に定例会を行った。今年は、昨年度に加えて、室戸のウミガメ協議会職員を加え、昨年度から交流があった人達とも引き続き情報を交換した。

財団法人黒潮生物研究財団年報

平成 14 年度より、年報記載事項をホームページに掲載することで、国から求められている公益法人の情報公開義務を果たすことができるため、印刷をやめ、ホームページ上で広く一般に情報公開を行うこととした。

5 業 績

【著 作】

黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

Vol. 4, No. 1 第 12 号 平成 15 年 4 月 25 日発行

- ・田中幸記 ウミガメの産卵から見た四国南岸の海岸環境
その 2 ~ 浜の堆積物について ~

- ・中地シュウ 砕け散った瓶のふた
- ・岩瀬文人 サンゴ学入門 (8) サンゴの生産力
- ・中地シュウ アサヒガニ

Vol. 4, No. 2 第 13 号 平成 15 年 7 月 25 日発行

- ・林 徹 クシハダミドリイシの卵採集法について
- ・中地シュウ クシハダミドリイシの生殖腺の構造
- ・岩瀬文人 サンゴ学入門 (9) 造礁サンゴの骨格形成
- ・中地シュウ イルカの海岸漂着

Vol. 4, No. 3 第 14 号 平成 15 年 10 月 25 日発行

- ・林 徹 2003 年西泊発、ミドリイシ属サンゴの産卵事情
- ・田中幸記 ウミガメの産卵から見た四国南岸の海岸環境
その 3 ~ 人口の光について ~

- ・中地シュウ 第二回黒潮生物研究所サマースクールの報告
- ・中地シュウ サメハダテナガダコ

Vol. 4, No. 4 第 15 号 平成 16 年 1 月 25 日発行

- ・林 徹 クシハダミドリイシの飼育法について
- 卵の受精からプラヌラの飼育まで -
- ・岩瀬文人 「陽のあたらない」サンゴの飼育
- ・田中幸記 TOPICS...瀬戸内海を泳ぐタイマイ?
- ・中地シュウ 雪化粧した黒潮生物研究所

その他雑誌類

- ・岩瀬文人 2003.04 第 2 回とことん知りたい!!ソフトコーラル講座 月刊アクアライフ 4月号増刊マリンアクアリスト(エムピージェー、横浜) 27:60-65.
- ・岩瀬文人 2003.07 第 3 回とことん知りたい!!ソフトコーラル講座 月刊アクアライフ 7月号増刊マリンアクアリスト(エムピージェー、横浜) 28:71-77.
- ・岩瀬文人 2003.10 最終回とことん知りたい!!ソフトコーラル講座 月刊アクアライフ 10月号増刊マリンアクアリスト(エムピージェー、横浜) 29:54-61.

【講 演】

学会等

- ・田中幸記, 亀崎直樹, 松沢慶将, 藤井隆司 高知県土佐清水市で捕獲された産卵前のアカウミガメの行動追跡.第 14 回日本ウミガメ会議(愛知県豊橋市)2003.11.28

- ・中地シュウ クシハダミドリイシの生殖腺の構造．日本サンゴ礁学会第 6 回大会（沖縄県石垣市）2003.11.14～16

【調査報告書等】

- ・平成 15 年度竜串地区自然再生推進計画調査報告書．2004.03 財団法人黒潮生物研究財団（環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所）
- ・平成 14 年度サンゴ移植事業報告書．2004.03 財団法人黒潮生物研究財団（宇和海海中資源保護対策協議会）
- ・平成 15 年度サンゴ移植事業中間報告書．2004.04 財団法人黒潮生物研究財団（宇和海海中資源保護対策協議会）

【研究所利用者の業績】

- ・土居修平 2003.03 高知県大月町西泊の海岸地先の岩礁で観察される魚類の分布と行動．大阪コミュニケーションアート専門学校 調査研究ゼミ 卒業研究
- ・板東啓子・松村真美 2004.03 『魚の大運動会』～魚の形と流れに対する行動～．大阪コミュニケーションアート専門学校 海洋動物飼育調教科 ドルフィントレーナーコース 卒業研究

6 その他

研究所利用者

下記のとおり研究所の利用者があった。

大学教授	1 名	延べ	2 日人
大学助手	1 名	延べ	4 日人
大学院生	8 名	延べ	52 日人
大学生	14 名	延べ	173 日人
専門学校生	5 名	延べ	106 日人
一般研究者	6 名	延べ	21 日人
(会合 1 回)	15 名	延べ	15 日人
	50 名	延べ	373 日人
合 計			

利用目的は、複数の目的をもって利用した者を重複して数えたところ、

大学院研究	2 名	延べ	23 日人
卒業研究	7 名	延べ	112 日人
企業研究	3 名	延べ	9 日人
その他研究	2 名	延べ	25 日人
アルバイト	15 名	延べ	208 日人
その他	23 名	延べ	40 日人
	52 名	延べ	417 日人
合 計			

だった。このうち「アルバイト」とは、平成 15 年度竜串地区自然再生推進計画調査で行った潮間帯坪刈り調査の試料を分別するために財団で募集したアルバイトに応募し、研

究所に宿泊してアルバイトを行った者(主に大学生)である。

寄 附

平成 15 年度には、個人 16 名、法人 4 団体からご寄附をいただき、寄附金総額は 26,059,000 円だった。謹んで御礼申し上げます。